

製品名: EphB2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10527**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	117kDa

抗原情報

遺伝子名	EPHB2
別名	EPHB2; DRT; EPHT3; EPTH3; ERK; HEK5; TYRO5; Ephrin type-B receptor 2; Developmentally-regulated Eph-related tyrosine kinase; ELK-related tyrosine kinase; EPH tyrosine kinase 3; EPH-like kinase 5; EK5; hEK5; Renal carcinoma antigen NY-REN-47
遺伝子 ID	2048.0
SwissProt ID	P29323
免疫原	抗血清はヒト EPHB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 991-1040

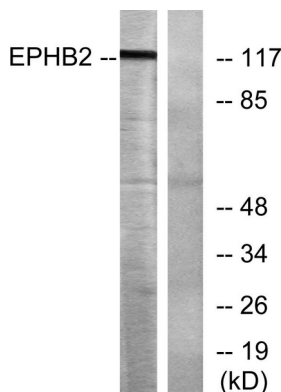
背景

この遺伝子は、受容体チロシンキナーゼ膜貫通糖タンパク質の Eph 受容体ファミリーのメンバーをコードしています。これらの受容体は、N 末端グリコシル化リガンド結合ドメイン、膜貫通領域、および細胞内キナーゼドメインで構成されています。これらはエフリンと呼ばれるリガンドに結合し、運動、分裂、分化などの多様な細胞プロセスに関与しています。Eph-エフリンシグナル伝達の特徴は、受容体とリガンドの両方がシグナル伝達カスケードを伝達し、双方向のシグナル伝達をもたらすことです。このタンパク質は、EphB と呼ばれる Eph 受容体のサブグループに属します。このサブグループのタンパク質は、配列相同性と膜結合型エフリン B リガンドへの優先的な結合親和性によって、ファミリーの他のメンバーと区別されます。対立遺伝子変異は、前立腺がんおよび脳腫瘍の感受性と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の触媒活性が発生します。ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。疾患:EPHB2 の欠陥は、前立腺がんの脳転移の発生に関与しています [MIM:603688]。疾患:EPHB2 の欠陥は、前立腺がんの進行に関与しています [MIM:176807]。機能:エフリン B ファミリーのメンバーの受容体。腫瘍抑制因子として作用します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1つの SAM (無菌 α モチーフ) ドメインを含む。類似性: 2つの III 型フィブロネクチンドメインを含む。サブユニット: リガンド活性化型は、SH2 ドメインを介して GTPase 活性化タンパク質 (RASGAP) を含む複数のタンパク質と相互作用する。膜近傍チロシン残基を介して RASGAP に結合する。PRKCABP および GRIP1 と相互作用する。組織特異性: 脳、心臓、肺、腎臓、胎盤、膵臓、肝臓、骨格筋。胎児脳で優先的に発現する。、

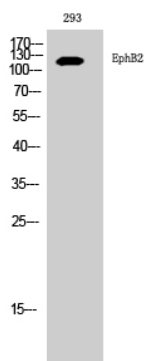
研究分野

軸索ガイダンス;

画像データ



EPHB2 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した EphB2 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析

